

1. 下線部①について、効果量を報告する際に、著者はどういったことを推奨しているか記しなさい。また、その推奨を守ることでどういったメリットがあると述べているかも記しなさい。(15点)
2. 下線部②を和訳してください。(15点)
3. 下線部③について、なぜ large samples で研究を実施することが望ましいのか、また small samples で研究を実施した場合にどういった問題が生じるのか、本文の内容を踏まえて記述してください。(20点)

<解答例 >

- 1 効果量は単に論文の結果セクションで報告されるだけでなく、アブストラクトや考察セクションにおいても言及されることが望ましい。例えば、アブストラクトで相関関係を示す r の値を記述するといったことである。これにより、研究で得られる効果量についての知識が読者に蓄積されやすくなる。
- 2 効果量を解釈する際にあまり注意が払われないこととして、小さいサンプルでは効果量 (r) の信頼区間が広くなることが挙げられる。とある研究では、ランダムサンプリングのシミュレーションを複数回行い、「一般的に、安定した推定のためには250人程度は収集する必要がある」と結論付けている。
- 3 小さいサンプルで研究を行った場合、効果量の推定が不確かなものになってしまう問題がある。また、近年の社会心理学の分野では、主流な文献の間でも知見が一貫しないということが起きている。この原因の1つに、小さいサンプルで研究が実施されていることが挙げられる。より正確な知見を見出し、知見の不一致を防ぐためには、多数の小規模研究よりも、少数の大規模研究が望ましい。

<出題意図>

信頼区間や効果量などの難解な用語は出てくるが、この英文の主題は「大きいサンプルサイズは正確な推定につながる」という統計学の基礎的な話である。この話は心理学の研究を進めるうえで欠かせない知識である。この統計学の基礎を理解できているかどうかを測る問題となっている。

出題意図

心理学にかかわる英文読解能力と英語に関する基礎的能力を問うことを意図した。

解答例

問 1 以前の行った難しい課題での失敗が、どの程度努力したのかよりも自分の知能に起因していると言われた子どもたちは、より少ない努力しかなくなるという発見

問 2 30 名の大学生が研究に参加した実験が行われた。参加者は、同じ本から取られた 2 つの段落のいずれかを読むようにランダムに割り当てられた。1 つの段落は、科学者が自由意志は幻想であると信じていることを示唆していた。もう 1 つの段落は意識について論じており、自由意志のトピックには触れていなかった。すべての参加者は、その後、一度に一つの問題がコンピュータ画面に提示される、一連の数学の問題を解くように求められた。参加者には、コンピュータプログラムにエラーがあり、いくつかの問題は回答と一緒に提示されてしまう可能性があることが伝えられ、問題は自分自身の力で解くように指示された（問題が表示されたときにスペースバーを押すことで回答を消すことができた）。不正行為の指標として、参加者がスペースバーを押した回数を測定した（押す回数が多いほど不正行為が少ないことを意味する）。決定論の段落を読んだ群は、意識の段落を読んだ統制群よりも少なくスペースバーを押した（実験中に約 5 回）ことを示した。統制群は実験中に約 10 回スペースバーを押した。図 2.5 は、各群の平均スペースバー押下回数を示している。

問 3 causes more immoral behavior to be exhibited by individuals.